

【公報種別】登録実用新案公報の訂正  
【部門区分】第1部門第2区分  
【発行日】平成18年8月3日(2006.8.3)

【登録番号】実用新案登録第3112657号(U3112657)  
【登録日】平成17年7月13日(2005.7.13)  
【登録公報発行日】平成17年8月25日(2005.8.25)  
【年通号数】公開・登録公報2005-033  
【出願番号】実願2005-3857(U2005-3857)

【訂正要旨】実用新案登録請求の範囲及び考案の詳細な説明、要約書の一部誤載により下記のとおり全文を訂正する。

【国際特許分類】

**A 4 6 B 9/04 (2006.01)**

【F I】

A 4 6 B 9/04

【記】別紙のとおり

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3112657号  
(U3112657)

(45) 発行日 平成17年8月25日(2005.8.25)

(24) 登録日 平成17年7月13日(2005.7.13)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

A46B 9/04

F I

A46B 9/04

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2005-3857 (U2005-3857)  
(22) 出願日 平成17年4月15日(2005.4.15)(73) 実用新案権者 505199980  
高田 謙一郎  
福島県いわき市平字七軒町63-3グリーン  
マンション3号  
(72) 考案者 高田 謙一郎  
福島県いわき市平字七軒町63-3グリーン  
マンション3号

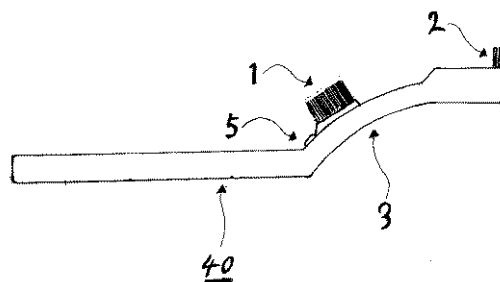
(54) 【考案の名称】 歯ブラシ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】従来の歯ブラシでは、口腔奥部の歯の隙間や糸楊枝等を使用する歯の部分では、歯ブラシの毛の全体がその侵入をさまたげてしまい、十分な歯の洗浄効果が得られなかったという不都合の解消した。

【解決手段】歯ブラシの毛1を後退させ、残った先端部の少数の毛2を歯の隙間等に侵入させやすくすることによって、歯の洗浄効果を十分にする。

【選択図】 図1



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

歯ブラシの毛の一部を後退させ、残った先端部の少数の毛を歯の隙間等に侵入させやすくすることによって、歯の洗浄効果を十分に高めたことを特徴とする歯ブラシ。

## 【請求項 2】

歯ブラシの毛の一部を後退させ、残った先端部の少数の毛の各一本ごとにラセン状の溝をつけたのを特徴とする歯ブラシ。

## 【請求項 3】

歯ブラシの毛の一部を後退させ、残った先端部の少数の毛のみを使用するさい、後退した毛が歯茎や口唇等などに接触しないように、後退する毛が最下方部の固定部まで移動する部分を、同心円の曲線形にしたことを特徴とする歯ブラシ。 10

## 【考案の詳細な説明】

## 【0001】

本考案は歯ブラシに関するものであり、歯ブラシの毛の部分と柄の形状に工夫を加えることによって、歯ブラシの歯の洗浄効果を高めたものである。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来の歯ブラシでは、特に奥部の歯の隙間や糸楊枝等を使用する部分には、歯ブラシの毛が効果的かつ的確に届かず、歯の洗浄が不十分であった。

## 【考案の開示】 20

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0003】

従来の歯ブラシでは、洗浄が不十分のため歯垢や食物カス等が十分に除去されず、口臭及び歯周病等の発生に関与していると思われる。本考案は歯の洗浄効果を高めて、それらの不都合を解決することを課題とする。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0004】

この課題を解決するための請求項 1 の考案は、歯ブラシの大部分の毛が先端の少数の毛を残して後退することを特徴とする（図 1）。これにより隙間に侵入しやすくなった毛が、従来の歯ブラシでは届かなかった奥部の歯の隙間まで効果的に洗浄して、歯垢、食物カス等を十分に除去してくれる。 30

## 【0005】

この課題を解決するための請求項 2 の考案は、毛 2 の各一本ごとにラセン状の溝をつけたのを特徴とする（図 2）。これにより歯の隙間の側面への洗浄効果が高まり、歯垢、食物カス等を十分に除去してくれる。

## 【0006】

この課題を解決するための請求項 3 の考案は、毛 2 のみをもちいて歯ブラシを使用する時、後退した毛 1 が口唇付近に接触して不具合がでないように、3 の部分を同心円の曲線にしたことを特徴とする。

## 【考案の効果】 40

## 【0007】

よって、本考案の歯ブラシにより、口腔内の洗浄効果が十分に高まり、虫歯、歯周病等の予防及び軽減に寄与できるものと思われる。

## 【考案を実施するため最良の形態】

## 【0008】

図 1 は、毛 2 のみを使用して歯の奥部や隙間をブラッシングする場合である。この時毛 1 は曲線の最下方部に固定されて毛 1 が歯茎や口唇に接触しないようになっている。又毛 2 の使用が終了した時は再び図 3 の状態に毛 1 を戻し、通常のブラッシングを行うことができる。

## 【0009】 50

毛 2 の丈は毛 1 の丈より 2 mm 程低いほうが良い。

また毛 1 は中程度の硬さ、毛 2 は毛 1 よりやや硬めにして径も毛 1 より太目にしたほうが良い（図 2）。

他の寸法等は、通常の一搬的な歯ブラシに準じて決めれば良い。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図 1】毛 1 を後退させ毛 2 をもちいて、歯の隙間や奥部等に使用する場合の図である。

【図 2】毛 1 毛 2 の部分の拡大図である。

【図 3】通常の歯ブラシとして使用する場合の図である。

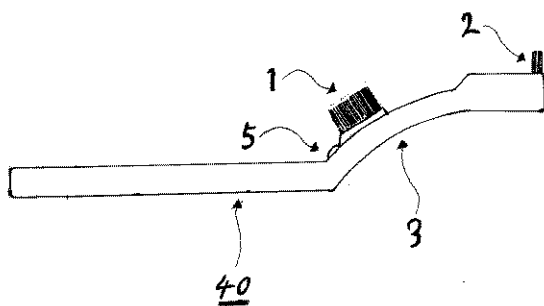
【図 4】毛 1 のスライド部分と曲線部の柄の受け部の断面図である。

10

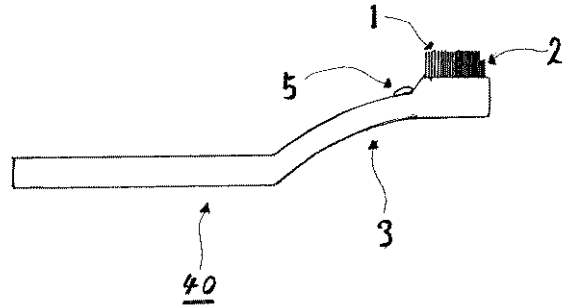
【符号の説明】

- 1 後退する毛の部分
- 2 固定された先端部の少数の毛
- 3 曲線部
- 40 歯ブラシ
- 5 毛 1 のスライド用の把手

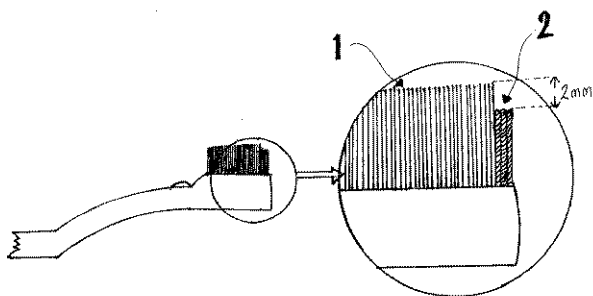
【図 1】



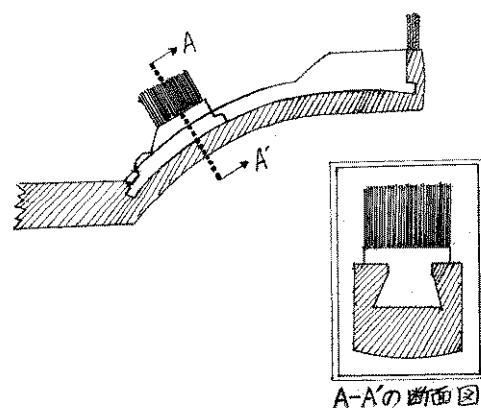
【図 3】



【図 2】



【図 4】



A-Aの断面図